

モーイ親方 嫁とり かせかけ着物

梗概 友だちが「おいモーイ、おまえ縁組した女の顔は見たか」といったら、「いや見てない」と言って、(モーイは)雄鶏を持って行って、縁組をした女の家に行って、パタパタ暴れさせた。そしたら、その女が出てきたので、(モーイは)見た見たといった。そしたので、その父親が怒って、「おまえたちのモーイは鶏を暴れさせて私の家を散らかした。もうおまえたちに娘はやれない」と言って、いいもどしに来た。それを聞いたモーイは、門に登って、ひっかけるものをもって、それで、そのいいもどしにきている人のカタカシラをひっかけて、「結んでいる縁がはずれるものか」と言った。その人は納得して(娘を)その嫁にした。また、父と母とが、着物を着せようとして、父がこの着物を着ろ、また、母が、この着物をきると二人が言い合いをしたので、モーイは着物をつけて、そのうえから、母が着物をぬうために買った反物をぐるぐると体に巻き付けて歩いたという。

話者情報 1903 (明治 36) 年生まれ 女性
記録日 1983 年 3 月 25 日
分類 笑話